

**平成29年度 第1回
元気県ぐんま21推進会議、群馬県地域・職域連携推進協議会 議事概要**

- 日 時：平成29年5月17日（水）14時～15時30分
- 場 所：群馬県庁舎28階 281B会議室
- 出席者：元気県ぐんま21推進会議委員 23名（うち代理5名）
 元気県ぐんま21推進会議幹事 9名（うち代理8名）
 食育推進検討部会委員 8名（うち6名推進会議幹事を兼ねる、代理出席1名）
 事務局 保健予防課長ほか8名
 （出席者合計：42名、欠席者：推進会議委員2名、監事1名）

【配布資料】

- ・次第（名簿・席次表・設置要領）
- ・資料1 元気県ぐんま21（第2次）の推進について
- ・資料2 ぐんま元気の5か条普及シンポジウムについて
- ・資料3 群馬県健康づくり推進連携協定について
- ・資料4 県民健康・栄養調査について
- ・資料5 ぐんま食育こころプランの推進について
- ・資料6 世界禁煙デー・禁煙週間について
- ・資料7 平成29年度研修計画一覧
- ・「ぐんま食育こころプラン」普及版
- ・ぐんまの郷土料理リーフレット
- ・ぐんま元気の5か条チラシ

1. 開 会

2. あいさつ：保健予防課長

開会にあたりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

本日は、御多忙のところ、「元気県ぐんま21推進会議」及び「地域・職域連携推進協議会」に御出席くださりまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から、本県における健康増進行政の推進に、御理解、御協力をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

本協議会はもちろん、地区の地域・職域連携推進協議会もようやく動き始めたところで、今後、各地域でどのような課題があり、どのように取り組んでいくのか、御検討いただきたいと思えます。

さて、県の健康増進計画である「元気県ぐんま21（第2次）」を策定してから本年度は5年目を迎えます。このあと、議事の中でも御説明をさせていただきますが、今年度は中間評価の実施も検討しております。

本日は、平成29年度の第1回目の会議となり、県からの行政説明や報告事項が多くなっておりますが、皆様からも忌憚の無い御意見をいただきたいと思いますと思っております。

限られた時間ではございますが、有意義な会議となりますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

時間の都合上、異動等に伴い、変更された委員の方々のみ紹介。

- 高崎市 白石委員に代わって、大河原 委員
- 健康保険組合連合会群馬連合会 町田委員に代わって、小野里 委員
- 全国健康保険協会群馬支部 田部井委員に代わって、木村 委員
- 群馬県労働局 齋田委員に変わって、佐藤 委員
- 群馬県健康づくり財団 荒木委員に代わって、戸塚 委員（出席は下村委員代理）
- 地方公務員共済組合群馬県協議会 山崎浩通 委員に代わって、山崎博幸 委員（当日欠席）

4. 議 事

(1) 群馬県健康増進計画「元気県ぐんま21（第2次）」の推進について
事務局より、資料1に基づき説明。

- ・平成29年度健康増進関連施策について、事業項目と予算状況
(質疑なし)

(2) 健康寿命延伸対策について
事務局より、資料2に基づき説明

- ・ぐんま元気の5か条の制定と普及啓発について、リーフレットの紹介
- ・健康寿命延伸シンポジウムの開催を案内。県内4か所で開催し、5か条の普及推進に努める。
初回は9月16日（土）県民健康科学大学を会場として開催

(質疑応答)

(委員長) シンポジウムのターゲットはどのような人か。

(事務局) 一般県民を想定している。

(委員長) 自治会関係の方を呼んではどうか。自治会を中心に地域活動をしているグループもあるので。

(事務局) 幅広く多くの方に参加していただけるよう、広報方法等を検討させていただく。

事務局より資料3に基づき説明

- ・群馬県健康づくり推進連携協定の制度概要、締結までの手順について
- ・平成28年度に実施した4社（群馬ヤクルト販売、大塚製薬、日本生命保険、クスリのマルエ）との協定締結式について

(質疑応答)

(委員長) 昨年度、4つの企業と締結したとのことだが、目標はあるのか。

(事務局) 目標は定めていない。民間企業との連携は、利益相反の関係もあるので、ただ数を増やすというより慎重に対応したいと考えている。基本的には企画部が行っている包括連携協定を勧めているため、「健康づくり対策」で特化して希望がある場合のみ受け付けている。

(委員) この協定を締結する、企業側のメリットはなにか。

(事務局) 企業も「健康経営」を進めているところが多くなってきたので、この協定を皮切りとして、従業員の健康づくりが進むと考えている。また、県のイベントに優先的に参加をさせていただくような形にしている。この他のメリットについては、まだ制度が始まったところでもあるので、県側、企業側、双方で何ができるのかを検討していきたい。

(委員長) この制度は、企業だけでなく団体でもよいのか。自治会等も“団体”と認定されるのか。

(事務局) 資料3 制度のフロー図にもあるように、最初の要件として「ぐんま食育応援企業」「群馬県がん検診受診率向上連携企業」に登録して一定の活動を行っていること、となっている。企業と言っても、職能団体等は登録しているところがある。

(委員長) ある程度、大きな括りの団体と理解した。もう一点、「インセンティブを提供する取組」とあるが、どのようなインセンティブが提供されるのか。

(事務局) まだ具体的事例があるわけではないが、県が実施する事業において、企業側から、参加者(県民)に与えるインセンティブを提供してもらいたいと考えている。企業としてどんなことが可能なのか、未知数なので今後検討していきたい。

(委員長) インセンティブがあると「がんばろう!」という気運が高まるので、よい取組を期待する。

(3) 県民健康・栄養調査について

事務局より資料4に基づき説明

- ・実施状況について報告(全14地区で平成28年10-11月に実施)
- ・国民健康・栄養調査に準ずる形で、追加調査項目を設定。追加調査項目については、「元気県ぐんま21(第2次)」の中間評価に必要な項目、その他追加が必要な項目など。
- ・現在、実施結果を集計中である。平成29年度中に企画解析検討委員会、調査分析検討ワーキングを中心として進めていく。

(質疑応答)

(委員長) このような調査を見るたびもつたいないと思うのは、未成年者の生活習慣を見られないことである。未成年者の喫煙状況などはがん対策の計画等にも含まれているので、今回の調査の結果をよく反映していただきたい。

(4) 群馬県食育推進計画「ぐんま食育こころプラン」の推進について

事務局より資料5、「ぐんま食育こころプラン」普及版、ぐんまの郷土料理リーフレットに基づき説明

- ・平成29年度食育関連施策について、事業項目と予算状況
- ・普及版冊子を用いた普及啓発の展開
- ・県民の食文化への興味、継承のための支援事業について

(質疑応答)

(委員) ぐんまの郷土料理のリーフレットは、食生活改善推進員が中心として作成した。郷土料理の食文化の継承だけでなく、小さい頃からの生活習慣病予防への取組も含めて行きたい。若い世代に特に広めていきたい。

(委員長) 若い世代とは、中学生、高校生も入っているのか。そうだとすれば、教育委員会などを通じて、給食等も活用していければいいと思うが。

(事務局) 本日、教育委員会は欠席となっているが、食文化の普及継承事業については、教育委員会と農政部と連携した形で、テキストを作成するということが今年度検討会を始めることとなっている。食生活改善推進協議会には、リーフレットの作成ではなく、郷土料理の調査を依頼している。このリーフレットに盛り込まれている内容の他に多くの調査結果を上げていただいているので、それをテキストの作成につなげていきたい。来年度のこの会議では情報提供ができればと思う。

(委員長) 色々な機関と連携して進めていくのが大切になると思う。事業は異なるが、がん対策も、がん教育という部分で保健予防課のがん対策室と教育委員会が連携して事業を行っている。がんの予防には職域も関連してくるので、また連携を広げて行ければと思う。

(副委員長) いい和食の日、日本食の日というのが設定され、11月24日となる。今年度県では11月26日に公開講座を予定している。和食への理解をしながら、食生活を見直すということが目的だが、この中でも郷土料理に触れていけるのではないかと考えている。

(5) 報告・情報提供

事務局より資料2(2ページ目)、資料6、資料7に基づき情報提供

- ・ 県の健康寿命延伸対策の強化として、県民向けに健康フェスタを実施している。5月31日の世界禁煙デーをめざして、5月21日にイオンモール高崎にて実施予定
- ・ 保健予防課が主催する、生活習慣病関係の人材育成研修の予定を紹介
- ・ 今年度5月28日で、現在の委員任期が満了となる。会議終了後に、新たな委員の推薦を依頼する文書を郵送にて発出するので、御協力をお願いしたい

5 その他

(委員) 協会けんぽよりお知らせとして、「協会けんぽ ぐんまだより」について紹介する。5月号として、ぐんま元気の5か条を掲載した。加入者へ周知を図りたい。ぐんま元気の5か条は協会けんぽのデータヘルス計画の目標とも一致するので、進めていきたい。

また、コラボヘルス事業も県と進めているところである。平成29年度の保健事業における重点事項として、①特定健康診査の推進および事業所健診データの取得促進、②特定保健指導の推進、③重症化予防対策の推進、④事業所の健康づくり意識の醸成をめざす(コラボヘルス)を挙げている。このような中で、今後も皆さまからの御協力、御意見をいただきたいと考えている。

(委員) 健康フェスタについて、県医師会としても5月21日は是非御参加いただければと思う。受動喫煙に関しては法案化の進みも遅く、社会的な気運を高めていくためにもこのイベントを活用できればと思う。県医師会は、この日に禁煙宣言を行う予定である。

(事務局) 健康フェスタでは、参加者へのインセンティブとして、健康寿命延伸対策の文言が入ったグッズを配布予定である。5か条やぐんまちゃんマークの入ったグッズをもらえる、というインセンティブで健康無関心層もイベントに誘い込めるような形にしたい。

(委員) 健康保険組合連合会群馬連合会からは、健康経営優良法人認定制度について御紹介する。このうちの中小企業部門について、ぐんまちゃんのロゴマークを利用してPRを進めているところである。今後は、健康寿命の延伸も併せて訴えていきたい。

(食品生活衛生課) ぐんま知っ得食品表示、ぐんま食の安全情報という資料を配付させていただいた。このような情報はほぼ毎月発行している。関係団体の皆さまには、メール等で情報をお送りすることもできるのでご希望があればお知らせいただきたい。

(委員) (委員長より、地区地域職域連携について武智委員から意見を、と御指名)

昨年度いた安中地域では、現場の保健師や管理栄養士がメーリングリストなどでつながり、リアルタイムにやりとりができる非常によい関係性が築けていた。また、現場の担当者を地区の協議会にオブザーバーと呼ぶことで、普段は聞けない情報収集ができたという声をもらった。自身も実際に現場に出向き、地域の職域の現場も実際に見ることができた。兼務をしていた吾妻地域では、職域の人たちとの連携はまだ難しいところもあるが、職域に関わる給食を作る方々に減塩活動などを進めているところである。町村の人たちとも協力してあたっている。

(委員長) 元気県ぐんま21は県の事業ということであるが、それぞれが市町村単位でもよく活動をつなげていっていると感じている。前橋市と高崎市からも御意見をいただきたい。

(委員) 前橋市では、企業連携ということから、ウェルネス企業登録というものを行っている。中小企業が多かったり、登録の最初の段階で趣旨をうまく理解してもらえていなかったりということがあり、事業自体が尻つぼみになってきてしまっている。企業にとっての登録のメリットという壁にもぶつかっているところである。今年度は登録企業に実際に訪問し、様々な情報提供を行ったり、交流をしたりと試みようと考えている。

(委員長) 今日紹介のあった県の協定の話しとも通ずるところがあるので、協力して行っていけるとよい。

(委員) 高崎市では、中小企業にアンケートを取り、出前講座を進めている。なかなか数が少ないところが課題となっている。それをどう増やしていくか、検討している。

(委員長) 企業では、安全衛生委員がおり、年間の事業計画を立てていると思うので、その中で取り上げてもらうようにできるとよい。そこで計画が決まってしまうと、途中で突然入れ込むというのは難しい。県産業総合保健センターの方で衛生管理者の会があると聞いているので、そのようなところと連携できるとよいのではないか。

(委員) 産業保健センターでは、衛生管理者協議会というものを設置して10年ほど経過している。その会議の中で、本日挙げたようなトピックを取り上げることで、企業の中で働く人の健康管理が進んでいくことになると思う。産業保健センターとしてもつなげていきたい。

(委員長) 企業としても、講師の先生を探すのは大変なので、出前講座を有効活用できるとよい。

(委員) 昨年度3月に慢性腎臓病の関係で県が健康フェスタを開催したと記憶している。会場に実際に行ったが、非常に盛っていた。その時は、民間企業がブースを出していることの意味が分かっていなかったが、今日、協定の話しを聞いてようやくつながった。チラシを見ると、これらの企業が「特別協力」と書いてある。ここに「県と健康づくり推進連携協定を結んだ企業です」と表記することが、企業側にとってのインセンティブの一つにならないだろうか。

(委員長) 色んな場で企業の名前が出せるということは、インセンティブになると思う。

(委員) 一昨年、保健所の方と企業とで合同開催した事業があるので報告したい。自身が勤めている企業の社員を対象として、伊勢崎保健福祉事務所と合同で調理実習を企画した。お一人様限定の簡単にできる料理教室と、帯同者向けに女性社員が子どもと参加できるような料理教室を実施した。食育にもつながるような取組だったと思う。企業は、保健師や看護師はいるが、栄養士の配置はなかなか珍しい。そのような専門職種のお手伝いを保健所等の地域機関に手助けいただければと思う。企業としても好評で、今年度は歯科口腔に関する事業を計画している。そういうことも、ある意味では企業側のインセンティブになると思う。

(委員長) 調理実習はなかなか企業では難しいと思うが、どこで行ったのか。

(委員) 伊勢崎市民プラザで調理実習室を借り上げて実施した。

(委員長) 昔は調理実習が多くあったような気がするが、そういうことができるところも減ってきている。高崎市の保健所は立派な調理実習室を持っていたと思うので、是非とも活用してもらいたい。

6. 閉 会

○事務連絡

ぐんま元気の5か条の制定と健康寿命延伸対策が、県の県政振興ということで、職員が部長表彰をいただいた。この表彰に恥じないような活動を進めていきたいと考えているので、今後とも御指導、御協力をお願いしたい。

○課長挨拶

委員の皆様、御審議ありがとうございました。

また、関係課、関係機関の皆様から情報提供いただき感謝します。

元気県ぐんま21の推進につきましては、委員の皆様が日々所属で取り組まれている活動が重要であると考えている。県だけでは対策を進めていけませんので、今後も引き続きお世話になります。どうぞよろしく申し上げます。